

(件名) 新型コロナに関する統計で、ワクチン接種歴ごとの新規陽性者数や重症者数、死者数の統計を公開することを求める陳情

(陳情の趣旨)

日本も含めて、新型コロナに関しては非常に大がかりな世論の誤誘導が行われてきています。その中で、最も重要なことが、新型コロナワクチンの長期影響、特に、mRNAワクチンの長期影響が全く確認されていないにもかかわらず、そのことが全く話題に上らず、行政側やマスコミによりほぼ完全に無視されていることです。

一般的にワクチン開発には10年程度の時間がかかるとされています。これは、ワクチンは健康な人に接種するため、その安全性が特に必要であるからで、長期の安全性を確認するにはその治験に5年程度がかかるためです。新型コロナのワクチンは1年程度で開発されていて、長期の安全性の確認がされていないは明らかです。

更に、mRNAワクチンについては、人間用、動物用を含めて、今回のものが世界で初めての実用化です。しかも、エイズワクチンなどでmRNAワクチンの実験がされてきていますが、どれもうまく行かず、中止になっています。

そもそも、新型コロナウイルスのウイルスの構成を考えると、スパイクタンパク部分に健康被害を起こす部分が集まっていることが指摘されていて、その部分をmRNAワクチンに使っているのですから、抗体を作らせる効果があることを口実にして、健康悪化を起こす化学物質を接種させていることとなります。このことは、既に様々な専門家により指摘がされています。例えば、Worse Than the Disease? Reviewing Some Possible Unintended Consequences of the mRNA Vaccines Against COVID-19という査読済み論文があります。これは、<https://doi.org/10.56098/ijvtpr.v2i1.23>に公開されています。

新型コロナウイルス感染確認者は、日本を含めて多くの国で全人口の1割から2割程度ですが、ワクチン接種者は日本を含めて多くの国で5割を超え、場合によっては9割を超えています。ここまで大規模に特定のワクチン接種がされたことは人類史上今まで例がありませんでした。しかも、長期の安全性の評価がされていない状態での接種でした。そのため、ワクチン接種歴と、新規感染者数、重症者数、死者数の関係を見ることは、ワクチンの実際の有効性を評価するためには欠かせないことであるのです。

ところが、既にワクチン接種が開始されて2年程度が経過しつつあるにもかかわらず、ワクチン接種歴ごとの新規感染者数、重症者数、死者数の統計資料は国の審議会レベルのサイトを見ないと分かりません。マスコミ報道にもほとんど載ることがありません。

本来は、一般市民に最も近い存在である地方自治体がこの関係の統計を公開すべきです。

以上の趣旨により、下記のことを陳情します。

記

1. ワクチン接種歴ごとの新規感染者数、重症者数、死者数の統計を鹿児島県がとり、それを県のサイトで公開すること。
2. 県内の市町村がワクチン接種歴ごとの新規感染者数、重症者数、死者数の統計を公開するように県下の自治体へ県が呼びかけること。
3. 集計にあたり、できれば、週ごとに統計結果を更新すること。ワクチン接種歴には、未接種者を対象群として含めること。

以上